



ベンガラで財を築いた豪商たちの生活を知る

旧片山家住宅は、宝暦9年(1759年)の江戸時代後期に建築され、およそ250年間にわたってベンガラ製造・販売を手がけました。ベンガラ屋としての店構えを残す3階18室からなる主屋とベンガラ製造に関わる付属屋が敷地内には立ち並んでおり、当時のベンガラの作業場で働く人々に思いをはせるだけでなく、日常生活の様子も感じとることができ、「近世弁柄商家の典型」として高く評価され、国の重要文化財に指定されています。

◆ 施設のおすすめ

いまではめずらしい銘木をふんだんに使った座敷には、彫刻が施された欄間もあり、天井も高く非常に広々とした空間が広がっています。対して、重ね単筍階段をのぼって一番奥の部屋には当主夫妻の寝室があるのですが、ほかの部屋とくらべると頭をぶつけそうなほど天井も低く圧迫感があります。これはもし強盗などがきても見つけにくくするための工夫だそうで、それほど地元でも有名な名家であったことがわかります。また、蔵にはベンガラの資料だけでなく学校の教科書や娯楽本、雑誌などが何百冊も保存されており、教育や教養娯楽に対する関心の深さがうかがえます。

◆ 子どもたちへのメッセージ

蔵のなまこ壁もよくみると中心に点があって遊び心が入っていたり、いろんな発見があると思います。宅内には当主寝室から女中居間までいろんな部屋にわかれているので、「ここはどんな部屋かな」と考えながらまわると、より当時の吹屋の豪商たちの暮らしを肌で感じていただけたらと思います。



ローハとベンガラ



ガイドさんがお出迎え



ひろびろ おくざしき 広々とした奥座敷



てんじつ しりょう 展示室には資料がたくさん



はん つか ベンガラは判にも使われていました



こんぼう ようす ベンガラ梱包の様子



とくちょうてき かべ もよう 特徴的ななまこ壁の模様